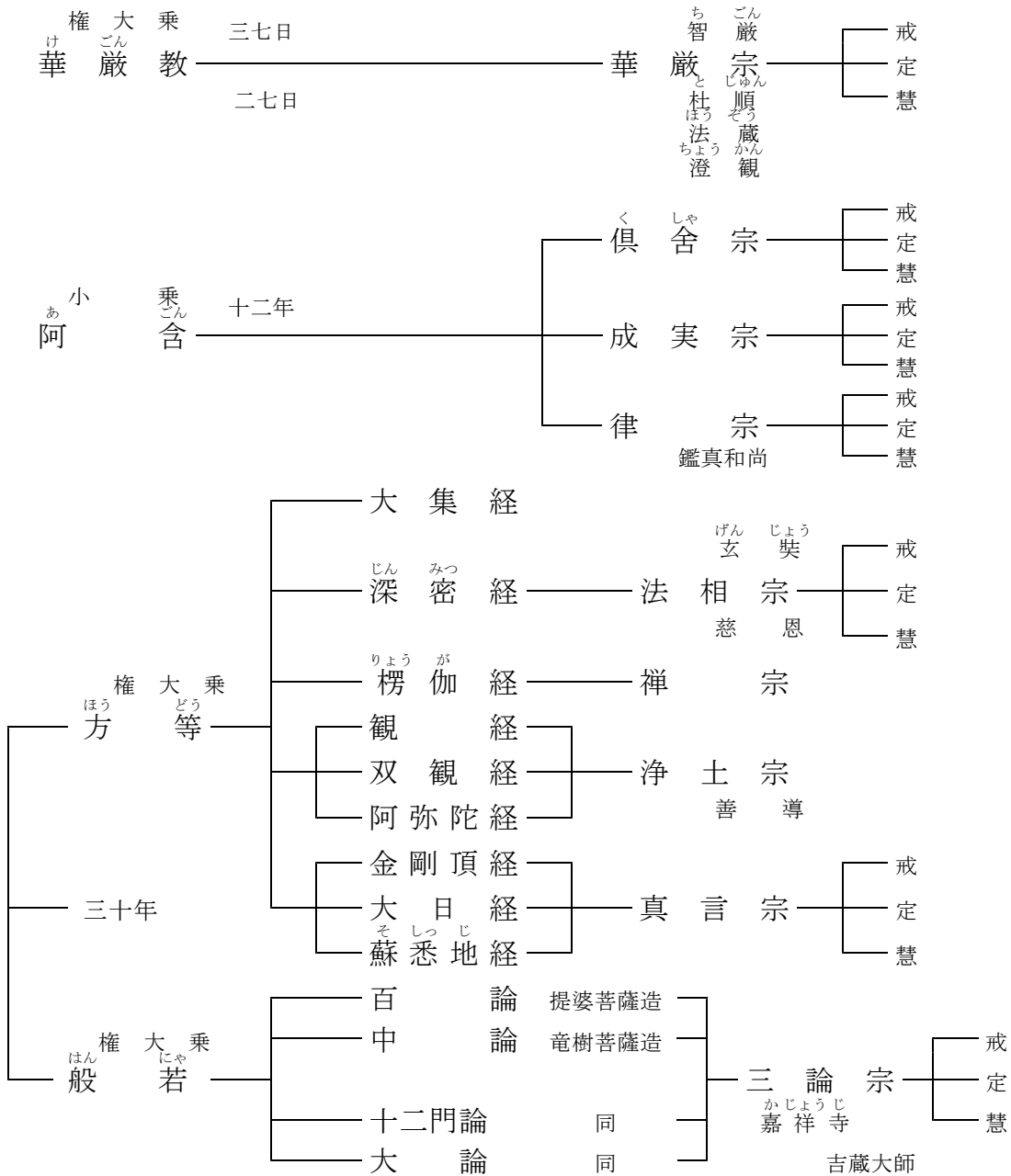


一代五時図

文永八年

五〇歳

大論に云はく「十九出家三十成道」と。

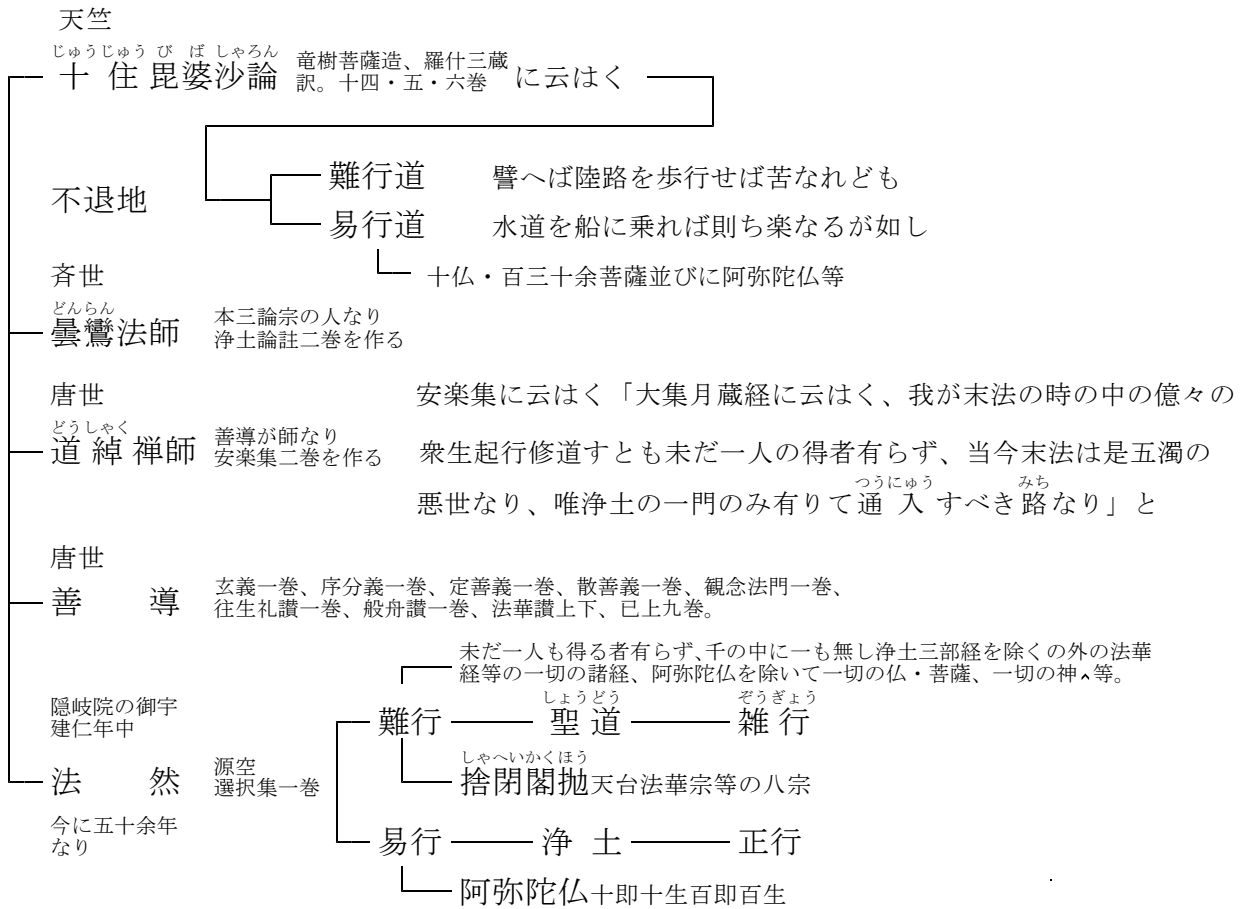
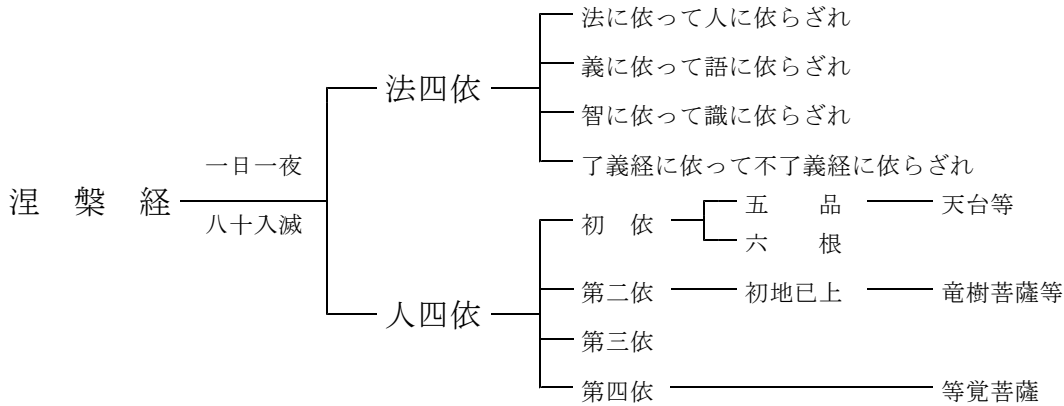


無量義經に云はく「方便力を以て四十余年には未だ真実を顕はさず」と。又云はく「無量無辺不可思議阿僧祇劫を過ぐれども終に無上菩提を成ずることを得ず。所以は何。菩提の大直道を知らざるが故に。險徑を行くに留難多きが故に」と。又云はく「大直道を行くに留難無きが故に」と。



「世尊は法久しくして後かなら要ず当に真実を説きたまふべし。種々の道を示すと雖も其れ実には仏乗の為なり。正直に方便を捨て、但無上道を説く。今此の三界は皆是我が有うなり、其の中の衆生は悉く是吾が子なり、而も今此の処は諸の患難多し、唯我一人のみ能く救護なを為す、復教きょうしやう詔だんすと雖も而も信受せず。若し人信ぜずして此の経を毀謗きぼうせば、則ち一切世間の仏種を断ぜん○其の人命終して阿鼻獄に入らん。将に魔の仏と作りて我が心を悩乱するに非ずや」舍利弗の疑ひ、二の巻。 「妙法華経○皆是真実なり」多宝証明の文。

涅槃経六に出ず



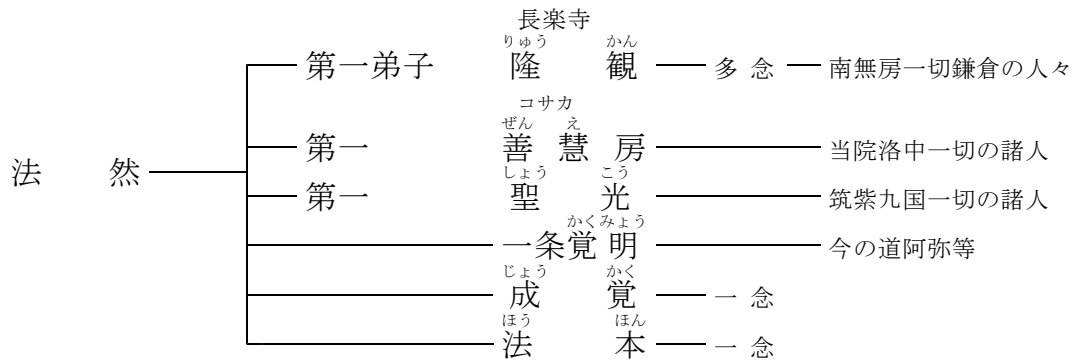
六百三十七部二千八百八十三卷

捨閉閣拋

双観經に云はく「設ひ我仏を得んに、十方の衆生至心に信樂し、我が国に生まれんと欲し、乃至十念して若し生ぜずんば正覺を取らず、唯五逆と誹謗正法とを除く」と。道綽が未有一人得者、善導が一千中無一、法然が捨閉閣拋、此等は豈謗法に非ずや。法華經第二譬喩品に云はく「若し人信ぜずして此の經を毀謗せば、則ち一切世間の仏種を断ぜん。或は復讐ひんじゆく 蹙しだして疑惑を懷かん。汝当に此の人の罪報を説くを聴くべし。若しは仏の在世、若しは滅度の後に、其れ斯くの如く經典を誹謗すること有らん、經を誦誦し書持すること有らん者を見て、輕賤憎嫉して而も結恨を懷かん。此の人の罪報汝今復聴け。其の人命終して阿鼻獄に入らん。一劫を具足して劫尽きなば更生また生まれん。是くの如く展轉して無数劫に至らん。地獄より出でては當に畜生に墮つべし」と。涅槃經第十に云はく「問ふ、一闍提とは其の義如何。仏言はく、純陀若し比丘及び比丘尼・優婆塞・優婆夷有りて僿惡の言を發し、正法を誹謗し、是の重業を造りて永く改悔せず、心に慚愧無からん。是くの如き等の人を名づけて一闍提の道に趣向すと為す。若し四重を犯し、五逆罪を作り、自ら定めて是くの如き重事を犯すと知りて、而も心に初めより怖畏慚愧無く、肯へて發露せず。彼の正法に於て永く護惜建立の心無く、毀訾輕賤して言に過咎多からん。是くの如き等の人も亦一闍提の道に趣向すと名づく。若し復説いて仏法衆無しと言はん。是くの如き等の人も亦一闍提の道に趣向すと名づく。唯此くの如き一闍提の輩やかからを除きて其の余に施さば一切讚歎すべし」と。



此等は皆一業引一生なり。故に一度悪道に墮すれば還つて二度悪道に墮せず。謗法は一業引多生なれば、一度三宝を破すれば度々悪道に墮するなり。伝教大師の守護章に云はく「不正義の一切学人は信受すべからず。所以は何。其の師の墮つる所弟子も亦墮ち、檀那も亦墮つ、金口の明説、何ぞ慎まざるべけんや、慎まざるべけんや」と。



已上弟子八十余人

乃至日本国は一切の念仏者並びに檀那等。又一切の天台・真言等の諸宗の人々、又法然が智分を出でず。各々其の宗をば習へども心は皆一同に念仏者なり。法華經を読めども、真言を行ずれども、皆助業と為して念仏を以て正業と為す。謗法の失脱るべからず。